自主の旗
日教組和歌山
第1200号
2021.12.21
編集部発行
Tel 436-6820

1200号発行記念

日教組和歌山の機関紙【自主の旗】発行一二〇〇号を記念して、歴代三人の執行委員長に寄稿を依頼しました。

【自主の旗】創刊号（1990.1.15）には左の文があります。

編集後記

【自主の旗】「かがやく朝の雲そめて、今ひるがえる自主の旗」と、日教組の歌にも歌われていますが、一人ひとりの自主性・創造性を尊重する教育活動や組合運動をすすめていこうとする日教組和歌山の創立記念にふさわしいことばです。日教組和歌山の機関紙に採用させていただきました。・・・・・・

私は、【自主の旗】の歌が大好きです。思いっきり大声で歌うと元気が出るし、労働組合！っていう感じが好きです。でも私が書記長になった二〇一九年は、すでに感染症対策が始まっていたので、集会や大会で一堂に会して歌う場面がありません。寂しいです。みんなで大声で斉唱できる日が戻ってくることを願っています。（カラオケBOXにはありませんでした）

2021年、今思うこと

現執行委員長　南出 進昭

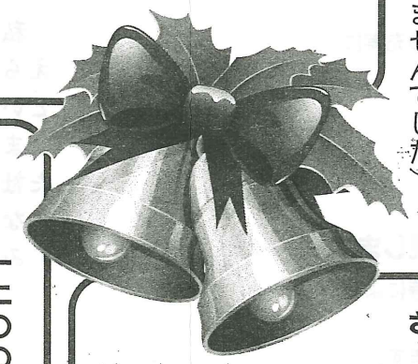
約20年前、教員になったころ勤めた学校は、職員室の半分以上の先生が40代後半から50代の方々でした。

はじめサラリーマン生活を送っていたため、この年齢構成には違和感しかありませんでした。さらに、授業の進め方を先輩方に相談したとき「そんなもんは聞くもんやないんや。盗むもんや」とのこと。それからは授業がない時間は先輩の授業を盗み聞きし、板書を盗み見する日々を送ることにしました。今思えば、ぎこちなかった授業が少しはマシになっていったのは、この先輩の技を盗みに行った成果のおかげかなと感じます。

生徒指導で家庭と連絡をとるときにも「そんな大事なことを電話じゃあかん。家まで行って親の顔を見て話ししなければ、ちゃんと伝わらんやろ」との言葉。おかげで保護者と信頼関係を築くことができました。今でもスーパーで会った時は、なごやかに話が弾みます。

今勤めている学校は若年世代の先生が増え、自分たち年配世代が何をどのように伝えることができるのだろうか・・・若い先生だけでなくすべての先生に次の言葉をかけ続けます。

『悩む前に、周りのなかまと組合があるんやで』



一二〇〇号に寄せて

前執行委員長　野田 拓也

『もう一二〇〇号にもなるのか。』

日教組和歌山結成以来の組合員の私としてはやはり感慨深いものがあります。

結成当時の『自主の旗』は単に活動結果を伝えるだけではなく、『自分たちの考え方に共感してもらいたい』『自分たちの存在を知ってもらおう』そして『仲間になってもらいたい』そういった気持ちがにじんでいたように思います。

私自身が『自主の旗』作成に大きくかかわるようになってから気を付けたことは『正直であれ』ということです。我こそ善であるという主張をしがちですが、職場の課題から社会・政治の問題まで広く取り上げる中で執行部も判断に迷う課題は多くあります。迷いはなくとして、矛盾は矛盾として伝えることを心掛けました。

機関誌は全職員とつながります。次の一〇〇号に至る活躍に期待します。

さらなる少人数学級の実現を

元執行委員長　中島 俊之

「日本の学校は、高い学力を保ち、統率された学級を維持しているが、世界一の多人数クラスゆえに、教員は、児童生徒一人一人にきめ細かく目を配り、強みや弱みを伝えてつまずきを克服する指導を個々の子どもに対して行うことができません。個々の子どもの興味関心や考えを引き出し、伸ばすような指導も難しくなっています。」

これは、教育会学者本田由紀さんの「日本ってどんな国？」―国際比較データで社会が見えてくる―からの引用です。

日教組が半世紀にわたり営々と国に要望してきたことや、マスコミや政治の場面で、教員の多忙がクローズアップされてきたことを受けて、やっと35人学級が小学校で実現する見通しが立ちましたが、中学校は放っておかれたままです。

子どもたちの自己肯定感や批判的思考を育て、教員の多忙による心身の疲弊を克服する最大の方策は「さらなる少人数学級の実現」です。この一点で、教職員（組合）、保護者、地域社会、議員等が手を組むことが、今教育に求められている最大の課題だと思います。その先頭に日教組和歌山が立って運動されることを切に願っています。

WTU
編集局

組合員配布

今年の新規加入組合員は【十四人】に増えました。目標の【二〇人】まで、あと【六人】です。みなさん、各職場での声かけの協力を、よろしくお願いします。

第四回分会長会議＆中央委員会

日時：一月十二日（水）午後六時三〇分

場所：勤労者総合センター大会議室

各職場1人の出席をお願いします。事前に参加の有無を教えてください。

073-436-6820

下のQRコードでも報告できます。